

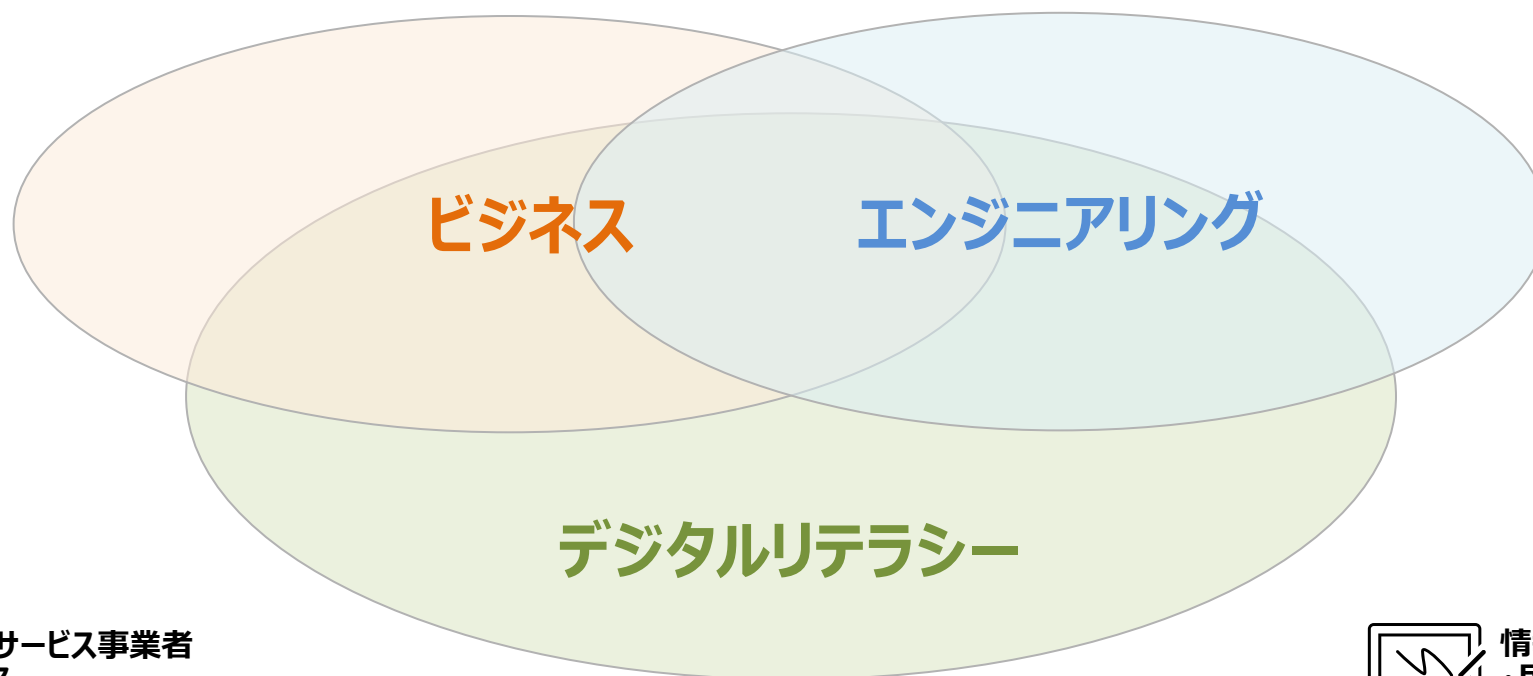
# デジタル人材のスキル・学習の在り方 ワーキンググループ (第2回)

2024年12月18日

情報技術利用促進課

# Society 5.0時代に向けた人材育成の体系

- デジタル技術の活用があらゆる事業領域に拡大し、あらゆる主体がデータでつながり、経済社会がデータで駆動されるSociety 5.0時代に向けて、人材育成は「ビジネス」、「エンジニアリング」、「デジタルリテラシー」の領域においてそれぞれ強化されるべきではないか。
- そのベースとして、技術革新を踏まえながら常に最新のデジタルスキル標準を示すべく、国はデジタルスキルの最新動向の把握に努めるべきではないか。



民間学習サービス事業者  
・アカデミア



情報処理技術者試験  
・民間検定

学習コンテンツ・実践的教育

試験・検定（能力保証・効果測定）

経産省・IPA

デジタルスキル標準（DSS）

# DX推進における人材・スキルの個別の課題

- デジタル人材不足と言われるが、それは人材の不足（量）だけでなく、**DXの進展や技術進歩に伴い求められる人材像・スキルの変化への対応という課題（質）が生じている。**

## 1. 専門スキル別の課題

- ①**データ管理**：データの実態を掌握し、価値を高めるビジネスでのデータ活用を牽引する人材が不足
- ②**ビジネスアーキテクト**：経営層ビジョンの下で**全社レベルでDXを推進するビジネスアナリストが不足**
- ③**デザイン**：顧客体験価値を高めるデザイナーの価値が認識されておらず、人材も不足
- ④**サイバーセキュリティ**：重要インフラや大企業、中堅中小企業を問わず、**自社のサイバーセキュリティリスクを把握し、必要な意思決定や管理を行い、対策を推進する立場の人材が不足**。セキュリティを本務としない者も、自身の業務に必要なセキュリティ知識を身に着ける必要がある
- ⑤**ITエンジニアリング**：事業会社におけるDXニーズの高まりとともに、**基礎技術を保有しつつ、新しい技術をいち早く取得し、柔軟に組み合わせて活用するエンジニアのニーズが高まっている**

## 2. 学習層別の論点

- ①**経営層・CxO**：経営者のデジタル分野の見識不足や学ぶ機会の不足
- ②**全社会人**：デジタル技術を抵抗なく積極的に活用し、自らの業務を変革していくため、全社員のデジタルリテラシー向上のための仕組みが必要。
- ③**若年層**：学習意欲の向上、継続的学習への環境作りにより実社会との接続を期待。

## 各分野についてご説明・ご議論いただきたい論点

- ☑ 当該分野の人材像（スキル）と社会・組織における必要性
- ☑ スキルの詳細  
（ハードスキル、ソフトスキルが混在する場合には、それらの違いについても具体的に示してください）
- ☑ スキル習得・開発の方法  
（試験、アセスメント、コミュニティ形成の活用など最適な方法論について、具体的に示してください）
- ☑ 人材育成の定着、社会的認知・確立に向けて  
（官民の連携や役割分担を含めて具体的に示してください）